

- 全国の頂点を決めるパルクール日本一決定戦 -

PARKOUR TOP OF JAPAN YOKOSUKA 2023

横須賀市 三笠公園 記念艦三笠前広場



東京都体操協会

Confidential + Proprietary

大会主催者 プロフィール

吉田 宏 HIROSHI YOSHIDA

ビジョン
VISION

「パークールを社会性のあるサブカルチャースポーツに。」

略歴
BIO

- 81年 岩手県出身 プロスキーヤー、アウトドアガイドとして活動
- 90年 渡欧。フランス（クーシュベル）のスポーツ企業所属
- 93年 (株) ゴールドウインヨーロッパ設立・EU進出に寄与
- 94年 スポーツ事業発足：仏スノーボード様式を紹介する日本初のハイビジョンフィルム企画制作

■ 数多くのアスリートをオリンピックへ導き、実力者を輩出

- 95年 スノーボードチームを発足 国内チームとして大会では常に上位を独占
- 98年 長野：スノーボードハーフパイプ 西田崇
- 02年 ソルトレイク：スノーボード 三宅陽子、森奈賀子、宮脇健太郎
- 10年 バンクーバー：スキークロス 瀧澤宏臣
- 14年 ソチ：スノーボード 角野友基 ～ 8位入賞
- 16年 X Games：スケートボード 中村貴咲 アジア人初の優勝
- 18年 平昌：日本選手団最年少スノーボード 國武 大晃を9歳で発掘～6年間育て出場

実績

RESULTS

アクションスポーツのみならず、陸上選手プロ化も推奨し、マラソン藤原新のロンドンオリンピック出場も大きくサポート。他種目選手コーチらの信頼も厚く、引退後のキャリアコンサルタントに従事。

TVスポーツコメントディレクター、スポーツコンテンツプロデューサーとして、オリンピック、世界選手権放送時の解説プロデュースや、スポーツ大会の主催サポート。

直近の活動
RECENT

- 19年 11月 日本体操協会主催 第1回パークール日本選手権を企画・営業・プロデュース
- 21年 3月 自身の総合プロデュース主催にて、パークール日本一決定戦 トップオブジャパンを開催
- 22年 3月 東京駅前にて過去最大級 Parkour Tokyo Championshipを企画・主催・開催

パークール
PARKOUR

東京都体操協会 理事
パークール委員会 委員長

パルクールとは？



ABOUT

- 障害物があるコースを身体能力だけで滑らかに素早く通り抜けるアクロバットスポーツの技を取り入れたり、壁や地形を活かしたダイナミックなパフォーマンスが特徴。
- ファッションや音楽との融合により楽しみ方が無限大に広がることも大きな魅力であり、日本でも東京五輪やX Gamesなどでも話題を生んだアクションスポーツとして、そのカルチャーも非常に注目。

VALUE

- 実践者は”トレーサー”と呼ばれ、パルクールを通じて身体機能などを理解し、身体的にも精神的にも自己の限界を超えていくことを目的に実践していく。
- 危険に挑むことではなく、「自身の身体能力を知り、その中でできること限界を超えていく挑戦」こそがパルクールの本質となる。

HISTORY

- フランスの軍事訓練が起源で、「走る・跳ぶ・登る」といった移動所作から自身の身体能力を高めるトレーニングカルチャー。

パルクールとは？

靴さえあれば誰でも参加可能な幼少～高齢者まで全世代を包含する生涯のスポーツ

基礎体力



「バランスをとる」「走る」「跳ねる」「超える」「つかまる」というパルクールの基本動作をベースに、多様な動きを体験することで、あらゆる運動能力の土台を育むことが可能。

スポーツ競技



2028年ロサンゼルス五輪での正式種目化が確実視されるなど、そのクリエイティビティの強さから「次世代のスポーツ」として注目を集めている。

健康 / リハビリ



体の動かし方、障害物の避け方、受け身の取り方など運動・身体能力、思考力・想像力向上につながり、老若男女だれもが取り組むことができるアクティビティ。

<パルクール競技人口>

様々な考え方があり、パルクールは本来のトレーニングとしてと、近年の競技化の部分で別れ、さらにパルクールそのものを定義する概念も様々なことから正確な人口を把握できてないのが現状です。イギリスではパルクールを実践している人は10万人を超えているという調査もあります。日本国内での競技人口は1,000人程度とされていますが、近年10代を中心に急増し始めています。

アーバンスポーツのオリンピック競技化

2021年東京オリンピックを起点に、スポーツは大きな変革の時を迎える



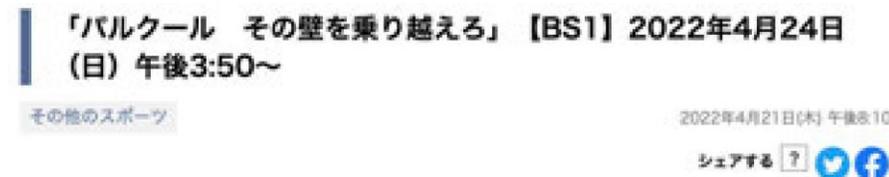
“アーバンスポーツ”が続々と五輪種目化

2021年に開催された東京オリンピックを皮切りにアーバンスポーツが世界中で注目を集めている。東京五輪では3x3、スケートボード、スポーツクライミングが新種目として登場。2024年に開催予定のパリ五輪では、ブレイキンが新たに正式種目化。

パルクールはロス五輪での採用が有力に

アーバンスポーツはこれまでのチームスポーツにはない豊かな創造性や、全世界共通で盛んであることなどから『次世代のスポーツ』として今後も五輪競技として続々と採用されていく見通し。パルクールはパリ五輪の開会式でお披露目予定。2028年ロス五輪では正式種目化が確実視されており、さらにニーズが拡大していくことが予想される。

パルクールのメディア露出



日本最大級のスポーツ総合サイト『Sportsnavi』にてライブ配信予定

大会当日はスポーツ総合サイト『Sportsnavi』のライブ配信を行い、一部始終を配信。

1,000万人を超える登録者数から多くの視聴者数を見込む。



過去メディア露出



PARKOUR

日本パルクールシーン、未来への大きな一歩「Parkour Top of Japan 2021 in 淡路島 presented by Xperia」アフターレポート

2021.03.12 | FINEPLAY編集部



アクセス総数

最大同時接続

33,000 PV

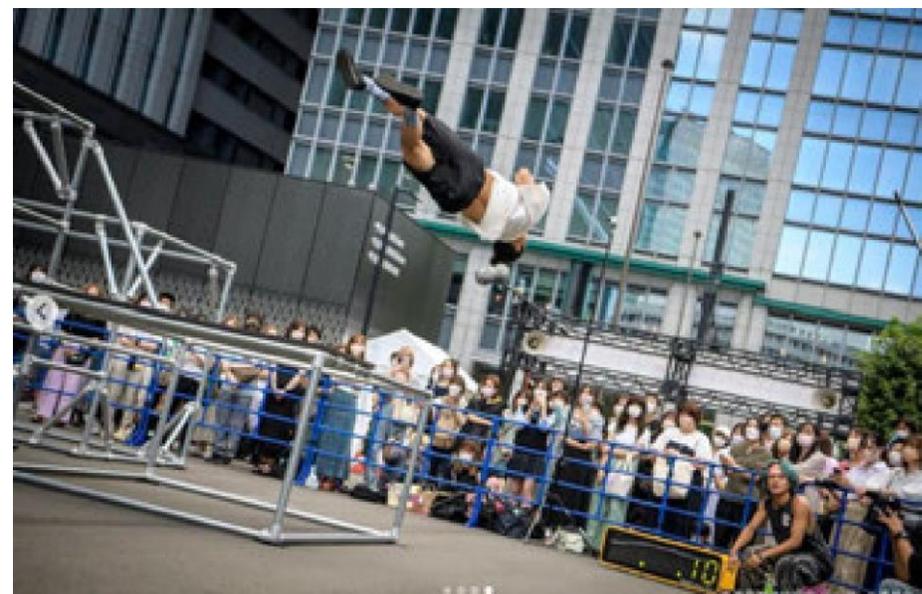
18,500名

過去大会実績：スポーツ専門動画配信サイト「Spots Bull」

- WebメディアにてLIVE配信予定
(2021年3月実績 スポーツブルにて最大同時接続数18,500名)
- 当日各キー局スポーツ番組にて取り上げ
(3月実績 各キー局主要スポーツニュースで8番組にて特集)
- 各新聞・Webメディアにて関連記事掲載。



過去大会会場



大会実績 東京都体操協会

全国から選抜されたトレーサーが横須賀に集結

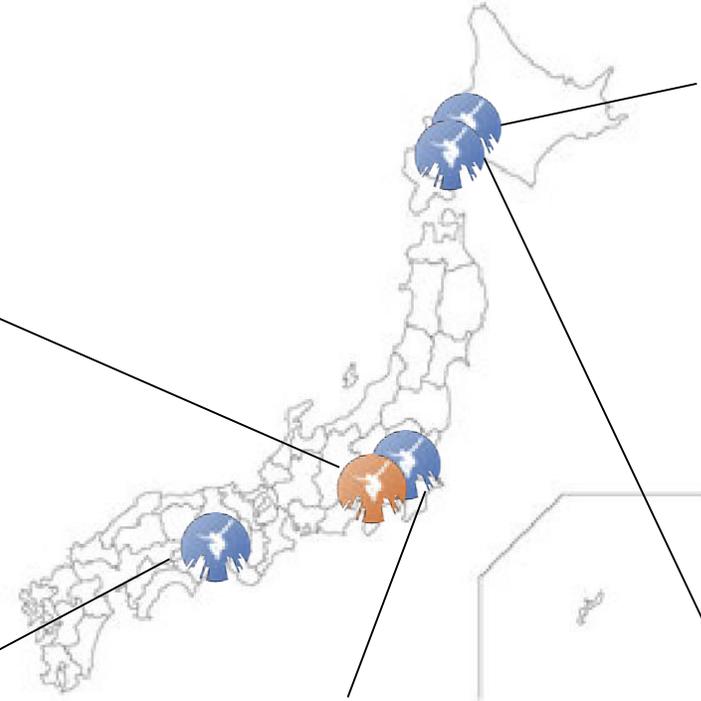
大会実績

男子・女子・スピードラン、フリースタイルを全国開催

⑤ PARKOUR TOP OF JAPAN YOKOSUKA
2023年10月28日：三笠公園 記念艦三笠前広場
神奈川県横須賀市稲岡町82



① PARKOUR TOP OF JAPAN IN AWAJI
Presented by Xperia
2021年3月7日：兵庫県立淡路島公園特設会場



③ PARKOUR TOKYO CHAMPIONSHIP 2022
2022年3月12日：TOKYO TORCH TOWER 常盤橋前
東京都千代田区大手町二丁目6番4号



② TOKIO インカラミ presents PARKOUR PREMIER CUP 2022 in 札幌
2022年8月27日（土）：サッポロファクトリー アトリウム
北海道札幌市中央区北2条東4丁目



④ PARKOUR PREMIER CUP 2023 in 札幌 & パルクール体験会
2023年8月25日～26日：サッポロファクトリー アトリウム
25日(金) 公開練習+パークール体験会
26日(土) PARKOUR PREMIER CUP 2023 大会



大会概要： PARKOUR TOP OF JAPAN YOKOSUKA 2023

PARKOUR TOP OF JAPAN YOKOSUKA

開催日時：2023年10月28日(土)

午前・予選 ～ 午後・決勝

10月29日(日) 予備日

住所： 神奈川県横須賀市稲岡町82
三笠公園 記念艦三笠前広場
横須賀中央駅から徒歩 約10分

後援： 横須賀市、横須賀商工会議所

種目： フリースタイル 男女

スピードラン 男女

プレジジョンスキル 男女

※本大会は「PARK CHALLENGE @MIKASA」の一環として開催しています。



アーバンスポーツのまち横須賀での開催理由

①横須賀市の地方創生にアクションスポーツを

- ・以前より、私自身がアクションスポーツ全般の聖地・発信地として、関東圏でベストな地域を探している中で、横須賀市に興味がありましたが、横須賀市の方々との出逢いや横須賀シーサイドマラソンに参加したことをきっかけに、横須賀を訪問する機会が増えていきました。
それから、横須賀市を知るほどに、横須賀市にとって“地方創生にアクションスポーツを活用すること”は非常に親和性が高いと考えるようになりました。

②パルクールを全国に発信していくうえで横須賀のネームバリューは全国区

- ・今後、パルクールという新しいカルチャーコンテンツを全国に発信し、浸透させるには横須賀が最適だと考えています。パルクールはフランスの軍隊が発祥の、いかに人が安全に移動していくかを追求するトレーニング文化から始まっている歴史があることから、米海軍横須賀基地もあり国際色豊かな横須賀市よりparkourの本質を発信する事が、全国他都道府県へのパルクールの本質、必要性等を浸透させる事へ繋がり、さらにパルクールによる地域活性化への起爆剤や予防医学の発展にも繋がると考えています。

③健康運動促進としての自治体のモデルケースに

- ・「アーバンスポーツ＝若者文化」にとどまらず、健康に生涯移動（歩行等）ができるというパルクールの本質を、シニア向けの健康運動促進として発信していくことも重要です。全国に発信していくモデルケースとして、スポーツによるまちづくりを目指す横須賀が最適な自治体と考えています。

大会出場選手（本日の特別パフォーマンス）

鈴木智也 選手



神奈川県出身 1998年1月31日生まれ
2022年 東京大会 優勝
2023年 FIGパルクールワールドカップ仏
大会フリースタイル準優勝

大貫海斗 選手



千葉県出身 2003年3月5日生まれ
2023年 PARKOUR ONE FLOW BATTLE
横浜赤レンガ大会優勝
2023年 KINGS OF CONCRETE
ロサンゼルス国際大会準優勝

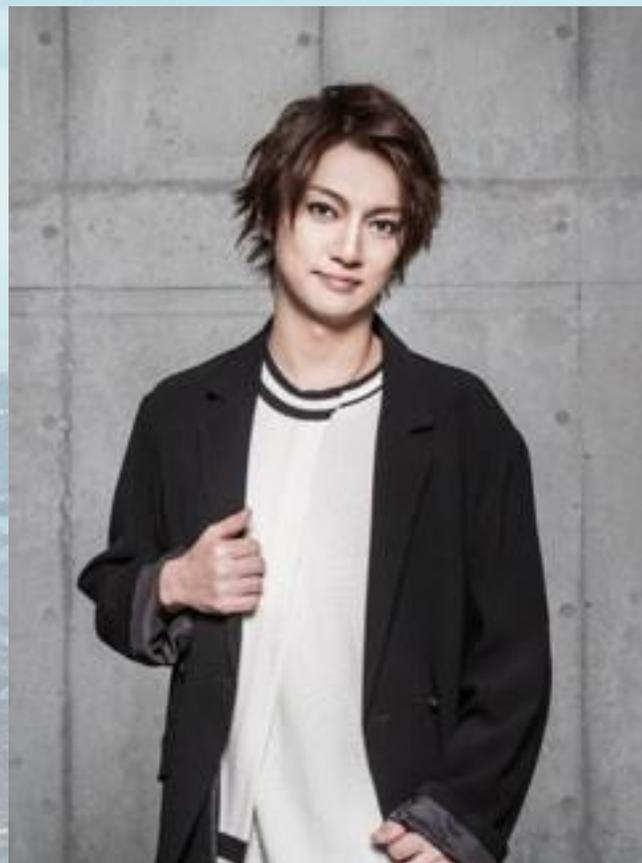
大会スペシャルゲスト

池谷直樹



東京都体操協会パルクール委員会 顧問
モンスターボックス 23段
世界記録保持者

喜矢武豊
ゴールデンボンバー



東京都体操協会パルクール委員会
広報部長

Soala
シンガーソングライター



大会テーマソング
Glorious 作詞作曲
楽曲の累計再生数1,000万回 突破

オブスタクル

競技場 障害物

メインボード

イメージ

